

令和元年度 第1回浦安市いじめ対策調査委員会 会議録

1 開催日時

令和元年7月24日(水) 午後6時00分～

2 開催場所

浦安市役所 4階 会議室S2・S3

3 出席者

(委員)

川義郎委員長、黒川雅子副委員長、稲見憲子委員、金子雅文委員、志摩一美委員

(教育委員会職員)

鈴木忠吉教育長、白石嘉雄教育総務部部長、大友隆司教育総務部参事、
醍醐恵二教育総務部次長、河野良江教育総務部副参事(教育総務課課長)、
宇田川知久教育政策課課長、大和利光学務課課長、亀山さゆり保健体育安全課課長、
丸山恵美子指導課課長、山本典子教育研究センター所長

(事務局)

鈴木勉指導主事、鈴木俊之主任主事、新井裕子主任主事

4 傍聴者

2名

5 議題

(1) 正副委員長の選任

(2) 報告

①平成30年度浦安市いじめ防止基本方針の点検・評価について

②本市におけるいじめの現状といじめ防止のための取組について

(3) 審議・協議事項(非公開)

6 議事の概要

(1) 正副委員長の選任

委員の互選により、正副委員長を選任した。

(2) 平成30年度浦安市いじめ防止基本方針の点検・評価について

平成30年度浦安市いじめ防止基本方針の点検・評価について、事務局から説明した。

(3) 本市におけるいじめの現状といじめ防止のための取組について

本市におけるいじめの現状といじめ防止のための取組について、事務局から説明した。

(4) 審議・協議事項

本市における「いじめ」に関する事例について、協議を行った。

(5) その他

会議録の作成について、事務局から説明した。

7 会議経過

会議に先立ち、委嘱状交付を行った。

議題(1)委員の互選により、川委員が委員長に、黒川委員が副委員長に推薦され、承認された。

議題(2)平成30年度浦安市いじめ防止基本方針の点検・評価について、事務局から説明した。

【委員】報告事項ですが、何かありますか。

【委員】 ないようですので、議題3に進みます。

議題(3)本市におけるいじめの現状といじめ防止のための取組について、事務局から説明した。

【委員】 いじめ相談のQRコードは、すぐにメール相談のページにつながり、使いやすい。

いじめアンケートについては、市として望ましい形式があれば、市内でデータ共有し、よい取り組みを広めるとよいのでは。学校ごとに実施回数はかなり違う。年2回実施の学校のアンケート項目が多く大変なら、簡素化して回数を増やす方がよいかもしれない。御検討いただきたい。

【事務局】 はい。

【委員】 今の件について。いじめアンケートがいじめをすくい上げることを目的とするならば、実施回数によって、どのくらい認知できたか、数の正当性が見えてくるとよい。年に何回実施すればよいかという根拠にもなる。

【事務局】 いじめ解消の基準が3か月を目安とすることから、年4回は実施する必要があると考える。いじめとして認知したものが、次のアンケートで、「ない」と回答された場合、子どもに確認したうえで、「解消」ということにもなる。年4回は必要ということ各学校に周知していきたい。

【委員】 アンケートは無記名か。

【事務局】 記名式である。

【委員】 いじめの認知や項目等について、少ない割合でも、人数に直すと軽視できない。2.8パーセントの項目でも約60人もいることになる。そして、悩んでいる子が1人でも、危険な状態になる前に救うことが大切。記名式と聞いて少し安心した。また、先ほどから出ているアンケートについては、先生方の負担にならない形がよい。ただ、子どもが助けを求める時期を逃さないためには、間隔を短くして実施する方がよいと思うので、考えていく必要がある。

【事務局】 中学校は、毎日担任と生活記録を取り交わしているので、記載から認知できるケースがある。アンケートに頼らず認知できるようにすることも大切である。

【委員】 LINEで通知し、期日までに回答→集計するという方法もある。アンケート以外でも、「何かあったら連絡を」というメッセージをLINEで通知することで、アクセスのハードルを下げる効果はある。今後の参考にしていきたい。

【委員】 アンケート回数が少ないから悪いとは思わない。実態に合わせる事が大切で、先生方の調査疲弊はよくない。回数より、アンケート後の対応が大切。担任がどのようにヒアリングするか、家庭との連絡をどうとるか、具体的な学校の対応を丁寧に把握していく方がよい。年1回実施でも丁寧な対応でうまくいっている学校、または年8回実施でもその後のフォローができていない学校があるかもしれない。

【委員】 タブレットを活用できないか。例えば、情報の学習でタブレットを使う際に、いじめアンケートも実施するなど。口では言えないことも、タブレットなら伝えやすいなど、ハードルを低くすることで、いじめをすくいあげることができる。入力すると自動的に集計できるソフトを入れれば、紙の集計より負担は減る。うまくICT教育と連携していけるとよいのでは。

【委員】 アンケートの回数は、年3回以上はしてほしい。件数が少ない学校でも重大事態が含まれることがある。

【事務局】今のところ、中学校は回数を減らすつもりはないようだ。アンケートの処理の仕方を確認していく。実施回数が少ない小学校では、どのように対応しているか、情報共有していきたい。

【教育長】小学校は、担任が1日学級にいるため、アンケートに頼らなくでも把握しやすい。中学校は、教科担任制のため、複数の職員の目があることと、毎日の生活記録で把握しやすいという学校種ごとの実態がある。重大事態になるのは、「言えない」ケース。いじめを受ける子どもの自尊心もあるため、アンケートをどれだけ精査しても、アンケートだけでは把握しきれないだろう。教師が子ども一人一人を丁寧にみることが重要。認知件数の数が多い少ないなど、数字に踊らされないようにしていきたい。

【委員】今、教育長からあった「丁寧に」という言葉について。点検評価にもあったが、「丁寧に」という部分の具体的な中身を大事にしてほしい。

【委員】浦安市は、認知の数としてはよく拾い上げている。これだけ認知していれば、後は対応の中身を丁寧に、ということが大切。引き続き、いじめを拾い上げ、拾い上げたものを解消できるようにしてほしい。

議題（4）本市における「いじめ」に関する事例について事務局より説明し、協議を行った。

事務局から連絡事項を伝え、閉会。

問い合わせ先 教育総務部指導課 担当 鈴木勉
電話 047-351-1111（内線）19216